※令和４年度以降入学生用

学校番号	311

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	パラレルノート数学Ⅱ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学の学習方法は、以下の３つです。
①毎時間の授業を大切にし、ノートをしっかりとる。
　⇒ノートは１番の参考書です。復習するときのことを考え、途中の計算を丁寧に書きましょう。
②例題を真似するところから始める。
　⇒例題は基本的な問題の集まりです。解けるようになるまで、暗記する程に繰り返し学習しよう。
③よく分かっている人に質問しよう。聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥
　⇒自分で考えて、どうしても分からなかった場合は、すぐによく分かっている人（先生、友人等）に質問し１つ１つ解決しておこう。

2　学習の到達目標

数学Ⅱにおける微分・積分を中心に復習し、基礎的な知識の習得を中心とした技能の習熟を図り、数学的に事象を考察することで、より物事を多方面から観察する力を身につける事を目標とします。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	微分・積分についての式の成り立ちや基本的な計算方法や考え方を理解することができる。事象を数学的に解釈し、数学的な見方や考え方を身に付ける。	様々な関数の性質に着目し、単元で身に付けた基本的な知識や技能を応用することができる。事象を論理的に考察し、表現する力を身に付けることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	微分と積分	１．微分係数と導関数 2.　導関数の応用 ・接戦の方程式 ・関数の増加・減少 ・関数の最大・最小	a:平均変化率と微分係数の計算方法を理解し、正確に計算をする事ができる。微分係数と接線の傾きとの関係を理解し、値を求めることができる。微分を利用して、関数の極大値と極小値を求めることができる。また、これを利用してグラフを描くことができる。 b:複雑な導関数の問題に対して、式を工夫して解くことができる。また、微分係数の意味を理解し、接線の傾きと結び付けて、接線の方程式を解くことができる。極大と極小の意味を理解し、値がどのように変化しているかを活用して、グラフを描くことができる。 c:総合的な問題において微分を利用することができる。導関数を理解し、複雑な問題の解決に活用しようとしている。	・定期考査	・定期考査 ・提出物	・小テスト ・振り返りシート など
2学期	微分と積分	1.　不定積分、定積分 2.　面積	a:不定積分の求め方を理解し、計算をすることができる。また、定積分の計算を正確に行い、値を求めることができる。 b:積分の意味を理解し、様々な式に対してその式にあった公式を使うことができる。積分と微分との関係を理解し、両方の特性を認識することができる。 c:積分に興味をもち、計算や面積に積分を活用しようとしている。積分にグラフの考え方を活用して様々な問題に取り組むことができる。	・定期考査	・定期考査 ・提出物	・小テスト ・振り返りシート など
3学期	総合問題	3.　総合問題	a:１学期・２学期で得た基本的な概念や原則・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。 b:　１学期・２学期で得た基本的な概念や原則・法則を元に、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 c:数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	・定期考査	・定期考査 ・提出物	・小テスト ・振り返りシート など

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度